

特集 IV

αリポ酸

冷え改善のメカニズムが
明らかに

シクロケム

シクロケム(東京都中央区、☎03・5614・7147)は、血流改善素材として「R体αリポ酸YCD(シクロデキストリン)包接体」を提案している。

同社の最新の研究により、そのメカニズムまで明らかとなった。産生されたATPは、ADP、AMPという順に体内で変換、使用されていく。

αリポ酸は、糖を代謝することで、体内のATP産生を促進し、血流や低体温症を改善することで知られる素材だ。

AMPの量が体内で増加すると、ATPを産生促進させるためのシグナルを送る酵素(AMPK)が活性化して、脂肪や糖

を燃焼させることでエネルギーを産生する。このエネルギーが熱として利用され、低体温症などを改善する。

ラットを用いた京都薬科大学との共同研究で、αリポ酸は、このAMPKの活性化作用があることが明らかとなった。

市場に流通しているαリポ酸製品は、体内に存在するR体αリポ酸と、本来存在しない非天然型であるS体を組み合わせた安定性を高めた「フェミ体」と呼ばれる状態のαリポ酸だ。

この共同研究により、R体のαリポ酸のみにこうした機能性がみられた。

通常、αリポ酸は、熱や酸に対して不安定であるが、同社では、環状オリゴ糖「γ-シクロデキストリン(YCD)」によって包接することで、安定性や吸収性を高めることに成功しており、差別化素材として提案を強化している。

αリポ酸は、体内でも合成されるが、加齢に伴い、その合成量は減少するため、サプリメントで補う必要がある。